

15 水・電気・ガスがつかえない生活

地震^{しん}の後の生活について考えよう。



地震^{しん}で停電^{ていでん}になり、水道は止まりました。都市ガスも止まっ
てしまいました。避難所^{ひなんしょ}に避難^{ひなん}した人たちも、家で生活してい
た人たちも、不便な生活をしなければなりませんでした。寒く
ても、おなかがすいても、のどが渴^{かわ}いてもがまんしました。水
洗トイレもすぐに使えなくなりました。また、少しの食べ物や
飲み物があつたら、ゆずり合ったり、分け合ったりしました。
夜は真っ暗な中で過ごし、怖^{こわ}くて泣き出す子どももいました。

◎長い時間、停電^{ていでん}になってしまふときのためにどんなものを準備しておける
でしょうか。

水道が止まり、飲み水はもちろん、食器を洗うことも、洗濯^{せんたく}をすることも、お風呂に入ることもできませんでした。そのような中、避難^{ひなん}所に支えん物資^{とど}が届き、飲み物や水や食べ物が配られるようになりました。道路が使えるようになった所から給水車が水を持ってきてくれるようになりました。給水車が来る場所にはいつも長い列^{れつ}ができました。子どもも大きな容器を持って列に並ぶ姿がたくさん見られました。といっても、お風呂や洗濯^{せんたく}ができるような水が配られるわけではなく、人々は工夫して節水しなければなりませんでした。

◎水道が使えなくなったとき、水を節約するために、どのような工夫ができるでしょうか。



水



電気(灯り)



ガス(たき出し)